

## 1. 2017 年度看護部総括

地域包括ケアが推進されている中、千葉二次医療圏においても超高齢者割合が年々増加しており、看護師を取り巻く背景は、高齢化の進展、疾病構造や在宅療養の変化などから、多様な医療ニーズに対応しなくてはならない状況です。看護師はこれまで以上に、患者や家族の意思を尊重しながら、看護を提供しなくてはなりません。

看護部としては、退院支援など地域連携の強化、認知症ケアや意思決定支援などの教育強化が必然でした。

そして、高齢者だけでなく医療需要度の高い小児に対しての退院支援・在宅支援の構築も必要になりました。相談支援センターの役割拡充と認知症ケアプロジェクトチームによる活動が開始され、実績を上げていきました。また、退院後の療養生活支援のための同行訪問を開始することができました。次年度は、小児に関して実績を上げていくところです。

今後在宅から外来・病棟、そして在宅へと継続した支援が必要となってきます。地域との連携を深め、継続した看護を提供できる自律した看護師育成とその質向上に努め、さらにやりがいを持って働き続けられる職場づくりに力を入れていきます。

今後社会情勢を見据え、病院の経営方針に則って看護部の組織体制強化に取り組んでいきます。



## 2. 教育実績

副看護部長 千代田 操子

昨年より検討していた海浜病院と青葉病院のどちらでキャリアを積んでも同じ評価ができる「千葉市病院看護部教育・キャリアラダー」が完成しました。評価者である看護管理者が評価視点を共通にするために両病院合同の師長主任研修を複数回実施しました。そして、教育委員のサポートもあり一部を除く全スタッフが新しいチャレンジレベルへの移行が終了しました。そのため、2017 年度に実施予定の各ラダーレベルの目標に合わせた研修を教育委員が中心となり新たに検討し実施しました。

院内研修では、キャリアラダーのレベルに応じた「倫理」研修、認定看護師が講師の院内認定コース「フィジカルアセスメント」「がん看護」を開講しました。院内認定コースの受講生は2年間で終了のため来年度の活躍が楽しみです。両病院合同研修では、チャレンジレベルⅢから段階的にマネジメントを学べる研修を開始しました。次世代の看護管理者育成につながることを期待しています。

次年度もタイムリーな研修と各自に求められているスキルに合わせた研修を企画してキャリアを積み自律して看護の質向上を目指す看護師を育成支援することが課題です。

### 3. 業務実績

副看護部長 松川 菜穂美

質の高い看護提供のため、看護職員・介護福祉士・看護補助員のリリース体制により、日々の効率的な人員配分を行いました。また看護職の更なる専門性発揮のため、SPDの搬送業務見直し、検査時使用物品のセット化、内視鏡器械・保育器洗浄の委託への業務委譲に向けた準備をし、業務の効率化を進めました。

2018年度の診療報酬改訂に向け、当院の病院機能や看護師配置にも合致する「入院料1」固持の準備として、「重症度、医療・看護必要度」の精度向上を図りました。従来の評価と実績データ（EFファイル）での評価の定義の齟齬確認、それぞれの評価の点検を行い、患者の状態・状況を更に正確に評価できるようになりました。

### 4. 労務実績

副看護部長 宮間 厚子

看護職が健康で働きやすい職場を目指すため、労働時間管理適正化に向け時間外勤務時間数・週休・年休・夜勤回数を把握し、公平な休暇の取得と業務調整を推進してきました。そして、看護部超過勤務時間総数は平成28年度と比較し減少傾向です。また、仕事量や仕事量の変動が大きく心身の健康に影響を及ぼしやすいため、体調不良や病気休暇、休職中の職員と面談し心身共に健康な状態で看護に当たるための健康づくりを支援してきました。しかし、時間外勤務時間数など個人によりその差があるため、来年度もヘルシーワークプレイスを目指してライフステージを考えながら支援し、安心して働き続けられる職場を目指します。

## 看護部の理念

私たちは病院理念に基づき、市民の皆様に信頼される質の高い看護を提供します。

## 基本方針

1. 人権を尊重し、安全・安心な看護を実践します。
2. 地域との連携を深め、継続的な看護を提供します。
3. 知識・技術・感性を磨き、自律した専門職を育成します。

## 2017年目標

1. 患者中心の看護を提供する
2. 看護実践能力を高めるために、自己啓発・研鑽に努める
3. お互いに思いやり、認め合い、活気ある職場をつくる
4. 病院経営に積極的に参画する

## 病床稼働状況 2017年度 看護部患者統計

	ICU	3F	4F	5F	6F	7F	GCU	NICU	合計	7F 新生児
病床数	14	42	44	50	53	44	25	15 →21	287 →293	10
在院患者数	1,321	9,669	7,951	11,751	11,340	8,644	3,539	5,615	59,830	2,643
在院患者 延数	1,369	12,074	9,329	13,026	12,570	9,483	3,777	5,636	67,264	3,139
1日平均患者数	3.8	33.1	25.6	35.7	34.4	26.0	10.3	15.4	184	8.8
入院患者数	331	2,358	1,296	1,118	1,192	840	0	260	7,395	489
退院患者数	48	2,405	1,378	1,275	1,230	839	238	21	7,434	496
転入	244	54	108	357	117	9	243	5	1,137	0
転出	530	14	37	209	89	7	6	243	1,135	2
延担送患者数	1,127	7,201	969	1,317	1,651	3,176	3,539	5,608	24,588	0
延護送患者数	186	2,451	4,119	3,821	7,526	4,174	0	0	22,277	0
病床稼働率(%)	26.8%	78.8%	58.1%	71.4%	65.0%	59.0%	41.4%	85.8%	63.6%	86.0%
病床利用率(%)	25.9%	63.1%	49.5%	64.4%	58.6%	53.8%	38.8%	85.5%	56.5%	72.4%
平均在院日数	7.0	4.1	5.9	9.8	9.4	10.3	29.7	40.0	8.1	5.4
平均看護職員数	22.(20)	41(38)	27(25)	29(26)	26(23)	35(30)	23(19)	44(41)	246(223)	
平均夜勤回数	9.3	8.0	7.5	7.3	8.2	8.3	8.3	8.8	8.2	

## 看護職員状況

1. 看護配置状況 2017年4月時点 病床数： 287 床 看護単位：9単位

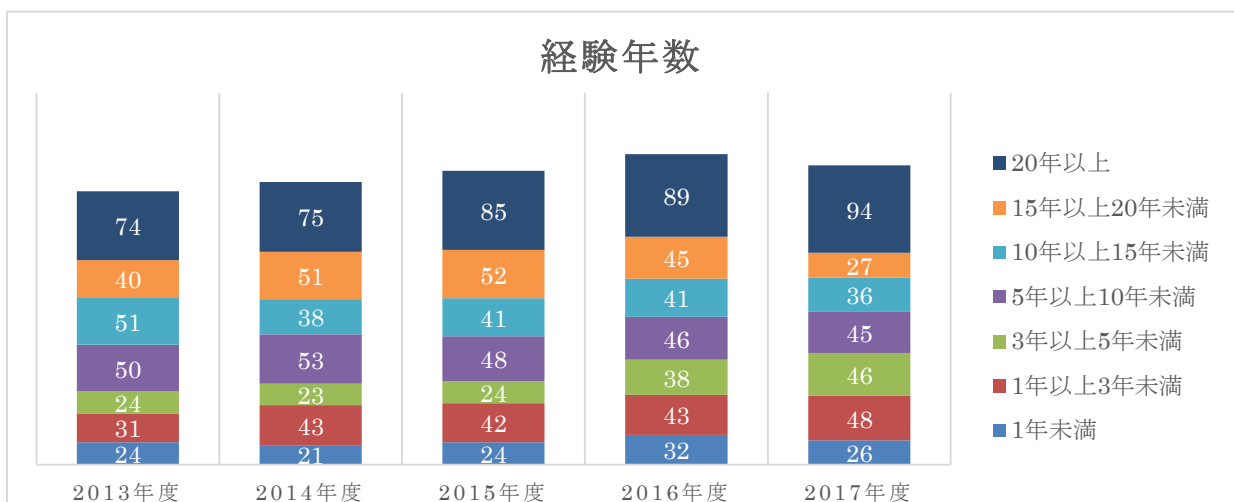
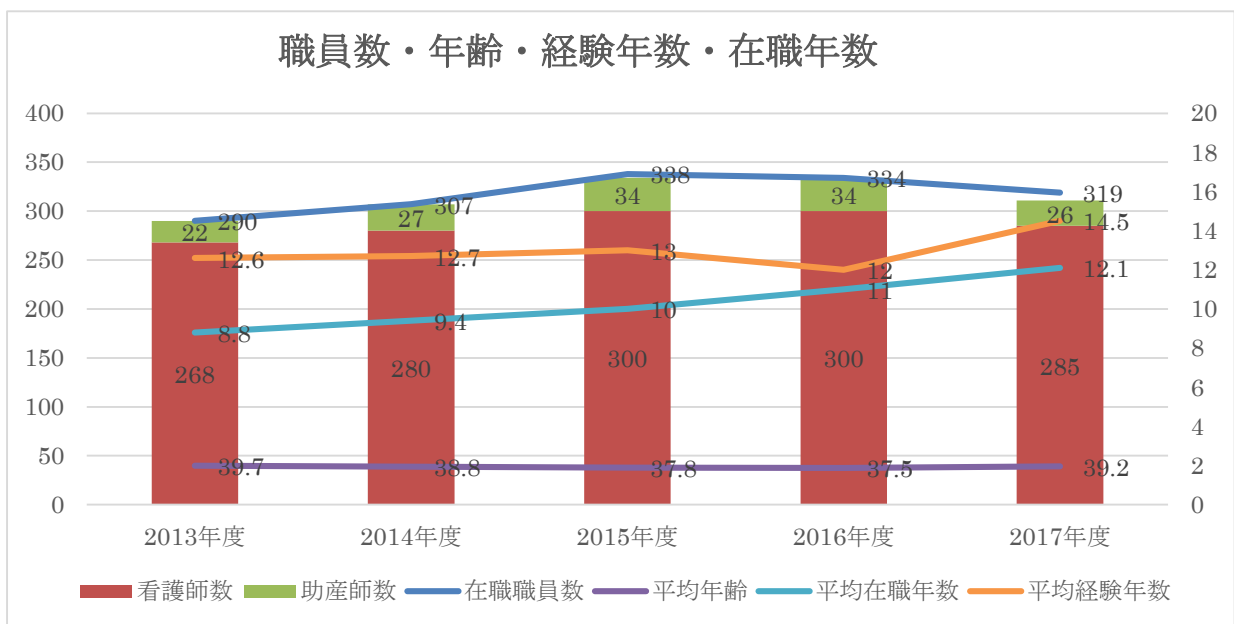
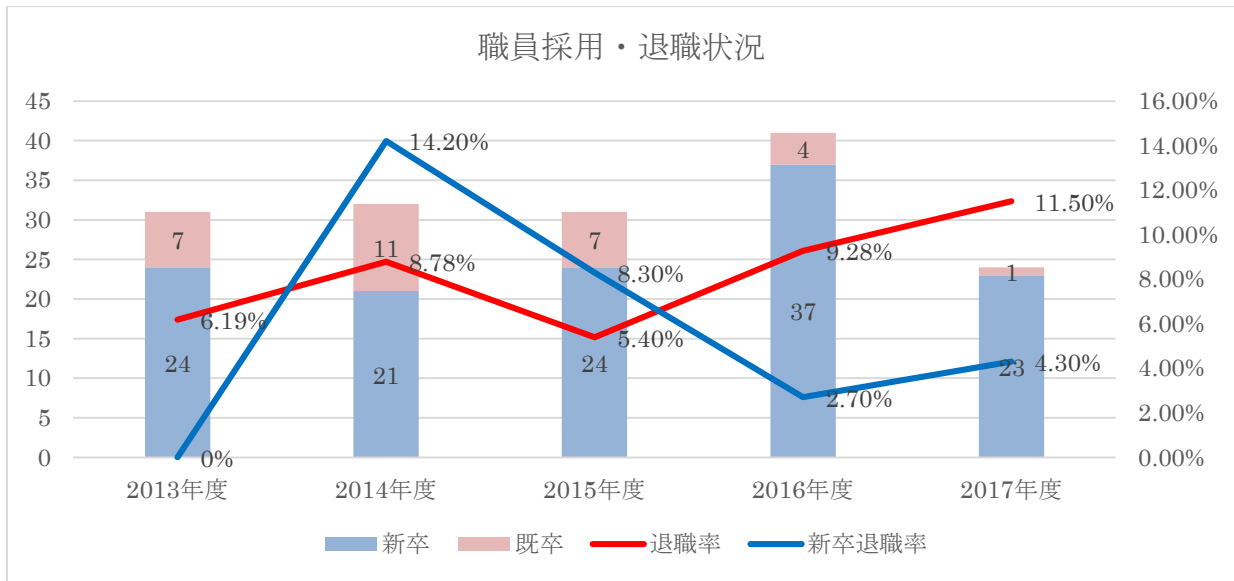
看護要員：看護師 295名 助産師 27名 介護福祉士 3名 看護補助員 5名

病床数変更：

看護単位	病床数	看護配置体制	備考
7ユニット	44床 (MFICU：3床)	7対1 (MFICU：3対1)	
6ユニット	53床	7対1	
5ユニット	50床	7対1	
4ユニット	44床	7対1	
3ユニット	42床	小児管理料4(12床)12月～ 小児入院管理料1 常時7対1夜間9対1	
NICU	15床	総合周産期特定集中治療室管理料 常時3対1	
GCU	25床	新生児治療回復室管理料 常時6対1	
ICU・CCU	14床	ハイケアユニット入院医療管理料 常時4対1	
手術室	5部屋		

## 2. 職員動向：

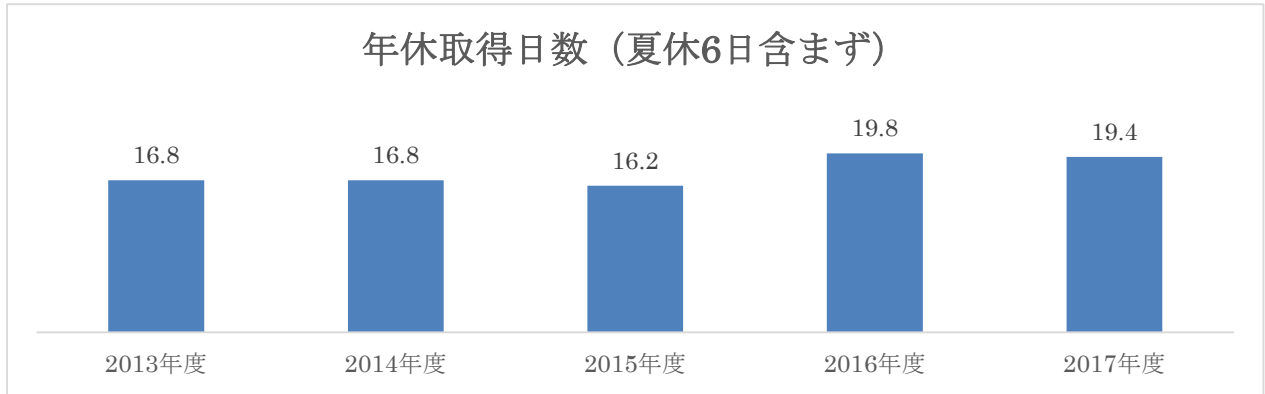
### ① 職員数・平均年齢・平均在職年数・平均経験年数



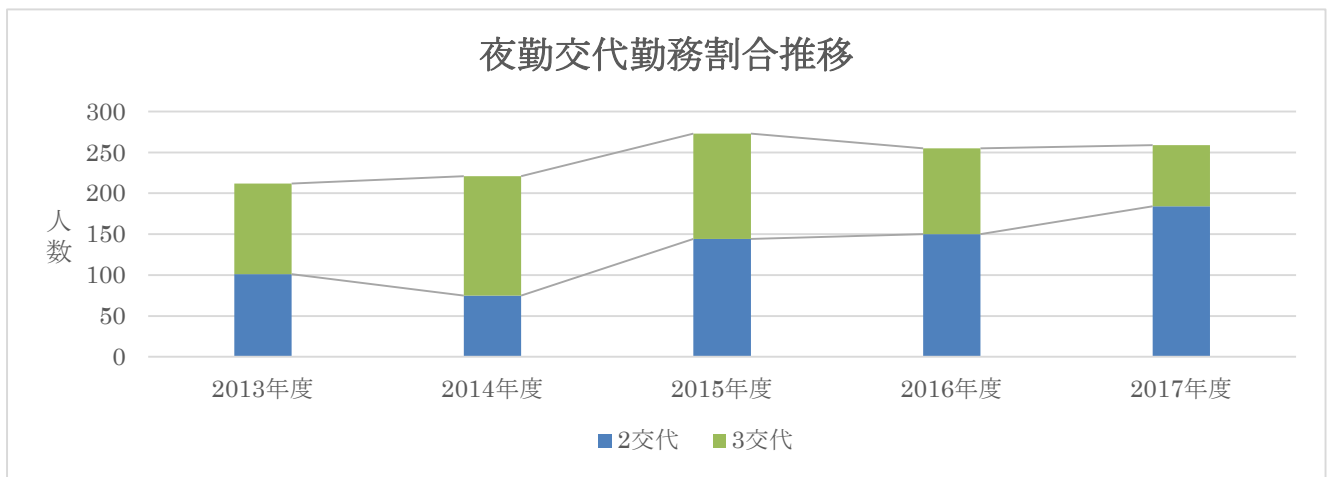
② 産休・育休取得状況（2017年度延べ人数）

	産休	育休	部分休	育児短時間	介護	病休	休職	計
人数	18	34	20	18	0	21	8	119

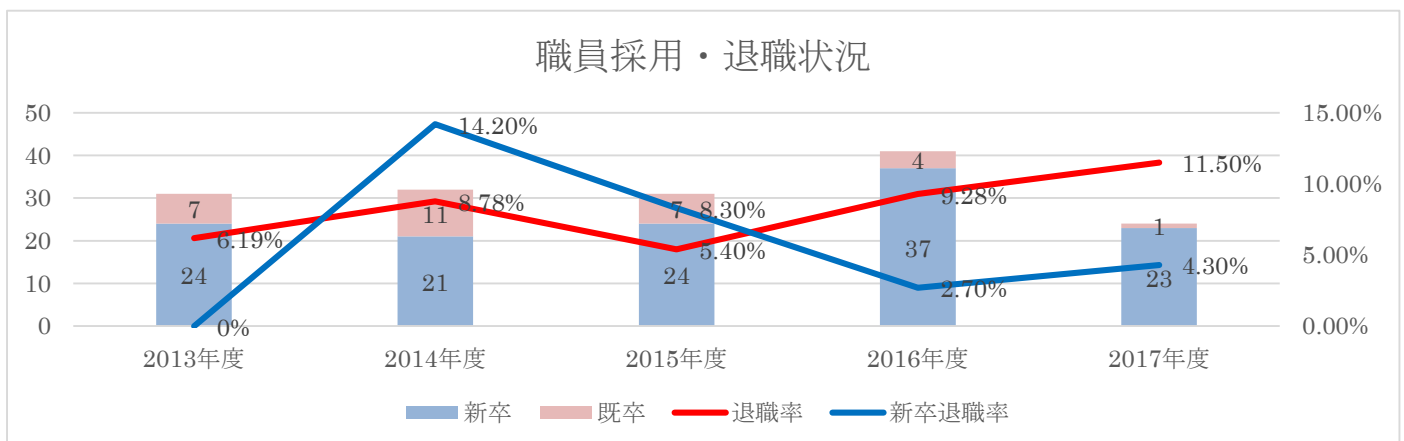
③ 年休取得状況（2018年3月31日現在）



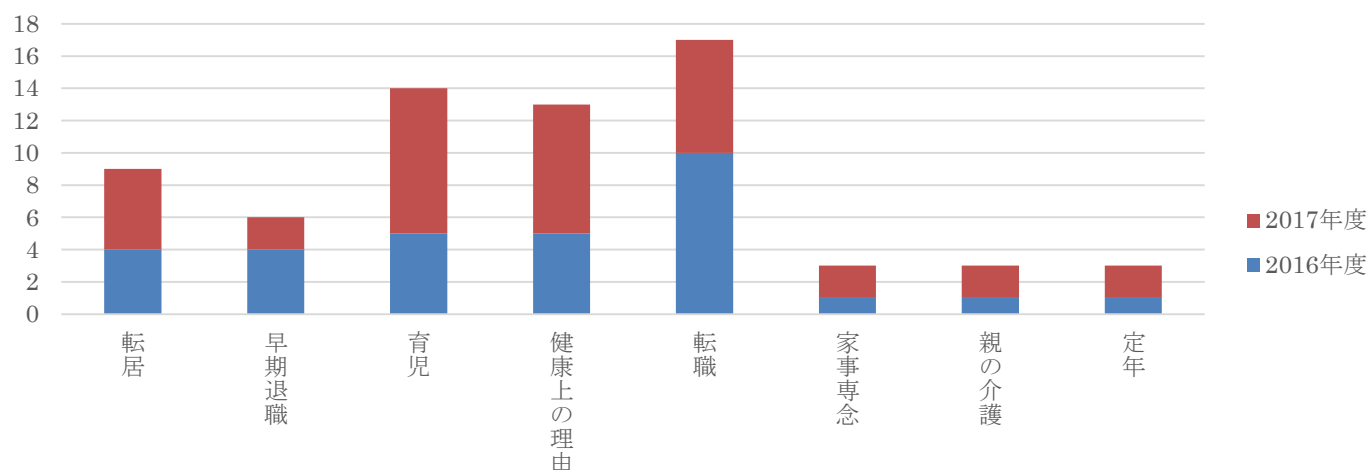
3. 夜勤選択割合（2交代と3交代）



4. 採用と退職者数：2017年度退職者 37人【内訳】 育児9 健康上理由8 転職7 転居5  
介護2 家事専念2 早期退職2 定年2



## 退職理由



## 2017 年度研修受講状況

	全体	フルタイム 勤務	部分休 勤務	短時間 勤務
研修対象者数 (人)	297	259	19	19
院外研修・学会受講数 (件)	368	346	14	8
平均受講回数 (回)	1.24	1.34	0.74	0.42
受講率 (延)	124%	134%	74%	42%
研修未受講数 (人)	53	37	5	11
未受講者率	17.8%	14.3%	26.3%	57.9%
e-ラーニング受講率	87.4%			

## 看護部 委員会活動

各委員会	活動内容
教育委員会	<p>両市立病院共通の「千葉市立病院キャリアラダー」が完成し、委員が中心となってサポートし新しいラダーレベルに移行することができた。また、ラダー目標に合わせて担当者が目的・目標を再考し研修準備から運営・報告まで実施できた。受講生の受講目的の達成度もアンケートではほぼ達成以上となっている。両病院共通のラダー開始に伴い合同研修を開催し受講者より「病院間の交流につながるので今後も続けてほしい」という意見が多かった。</p> <p>今後も専門職業人として自律するために必要な教育を目指していく。</p>
臨地実習指導者会	<p>学生指導の質を担保するために臨地実習指導者要綱・臨地実習指導者マニュアルを作成した。また、全体オリエンテーションの内容と方法を見直し、病院・外来部門の説明用パワーポイントを作成した。さらに、学生専用のケア用品を各部署に配置し、学生が学ぶ環境の統一を目指した。</p> <p>今後も指導者が課題を見つけながら指導者像を描き、役割モデルになることを目指していく。</p>

<b>業務・改善用具検討委員会</b>	<p>リリーフナースがスムーズに業務できるよう、器材庫内の整理整頓を行った。具体的には、各病棟で共通して使用している器材の配置場所を統一したり、使用頻度が低い器材は、使用頻度が高い病棟に譲ったりして、器材庫内の整理整頓を実施していった。また、病棟間における物品の貸借方法について統一を図った。これまでは、各病棟が独自に管理をしていたが、病棟間の貸借が明確になるようノートを作成し、その運用を開始していった。</p> <p>今後も病棟スタッフの意見を取り入れながら、業務改善を進めていく。また、物品や器材に関しては、病棟間の統一が図れるよう検討していきたい。</p>
<b>記録委員会</b>	<p>教育キャリアラダーに沿って新人対象の「看護診断・記録基準」「看護必要度」研修（ラダーⅠ）、看護記録の基礎①（ラダーⅡ）、看護記録の基礎②（ラダーⅢ）と段階的に研修を実施した。また、「重症度、医療・看護必要度」研修は対象病棟全員が受講できる様に研修を複数回実施した。さらに、全部署対象に看護記録の監査を2回/年実施し、結果をフィードバックして基準に沿った記録を目指した。</p> <p>今後も記録の充実を図り、継続看護につながる支援をしていきたい。</p>
<b>看護研究委員会</b>	<p>会員同士の親睦が図れるように新人歓迎会を開催することができた。参加者は、看護師85名、医師3名、コ・メディカル19名の合計107名であった。看護研究発表会では、外来、手術室、NICU、3F、5Fから演題発表があった。また、会員が自己研鑽の機会が得られるよう豊永純子氏を招き、「看護師として自覚を持ち、患者家族に安心感を与えるメイク」をテーマに講演会の企画・運営を行った。参加者は48名であり、「楽しかった。」という感想があった。</p> <p>今後も会員の研究活動が円滑に進むようにインターネット環境・統計ソフトを整える等の支援を行っていきたい。</p>

## 看護部実績 専門領域の強化

1. 日本看護協会認定：母性看護専門看護師 1名
2. 学会認定：認知症ケア専門士 2名

各自の専門性を活かすための広報活動としてRNニュースの発行、市民公開講座の講師、3月に「活動計画の振り返りと成果の発表会」を実施した。また、院内研修や部署の勉強会で新人対象の基本知識やジェネラリスト対象の専門知識を習得するための講師を行った。

今後は、地域の医療需要や病院の方針に必要となるリソースナースの育成支援と専門性を発揮できる活動の場をさらに広げていくことが課題である。



## 看護部 リソースナース委員会 活動状況

分野	集中ケア：町田 裕子
実践	ICU のラダーチャレンジレベルⅡと院内異動の看護師を対象に、医療機器装着患者を中心にベッドサイドでの OJT を実践した。OJT では、バンドルやプロトコル、スケールなどの客観的指標を用いて、看護師が 1 人で実践できることを目指して関わった。
指導	2017 年度は、看護師のフィジカルアセスメント能力が向上し重大な病態変化を未然に防ぐことを目的に、ラダーチャレンジレベルⅢ以上を対象にフィジカルアセスメントの研修を開始した。今後は、研修修了者が院内でフィジカルアセスメントを指導できる人材として活躍できるような関わりを継続していきたい。
相談	研修などの機会を通して、集中ケア認定看護師が対応できる相談内容などの広報活動を継続している。今後は、研修修了者をはじめ院内のスタッフとともに、病態変化のアセスメントなどを相談し合える環境作りをしていきたい。

分野	皮膚・排泄ケア：鈴木 修子
実践	新人研修では実践力につながる「排泄と褥瘡管理の基礎」の講義と演習を行い、院内全体研修では「褥瘡管理」をテーマに知識の普及を図った。褥瘡ケアやストーマケアの院外研修での講師も積極的に行っている。褥瘡委員会の中で褥瘡回診や褥瘡マニュアルの改訂を継続的に行い、院内褥瘡管理に携わっている。2017 年度は外来でのストーマケア延べ 174 件、病棟への褥瘡ケア訪問 84 回であった。
指導	東関東ストーマリハビリテーション講習会修了者を対象に個別で実技指導を行い、病棟でのストーマケアリーダーを育成した。また、外科の医師・看護師を対象に、術後離開創に対する治癒の促進と費用対効果を目的に陰圧閉鎖療法の勉強会を開催した。今後もストーマケア・創傷ケアの実践において、支援を継続していく。
相談	2017 年度は院内コンサルテーション 54 件、その後の病棟訪問延べ 87 回であった。院内からの相談は随時受け付けている。院外の研修会では千葉県オストミー協会主催の講演と患者相談を担当した。また、かかりつけ患者を担当する訪問看護ステーションからの相談にも対応し、連携を図っている。

分野	緩和ケア：高島 美智子
実践	がんと診断されたときから、患者・家族の全人的苦痛と QOL を重視して関わる事を目的として、インフォームド・コンセントの同席や看護外来での相談を行っている。緩和ケア外来では、終末期患者の意思決定に寄り添いながらその人らしい生活を送れるように地域のサポートチームと連携を図ることができた。
指導	2017 年度より、チャレンジレベルⅢ以上を対象に院内における緩和ケアの中心となる看護師を育成するため乳がん看護認定看護師と伴に「がん看護（緩和）」コース研修を開始した。目的は、『病を持ち、心身の苦痛を持つ患者や家族の個別のニーズを把握し、基本的な緩和ケアの実践能力を養う』とした。研修修了後は各自が病棟のリンクナースとして活動できるように、継続した指導を行っている。
相談	がんの進行に伴う身体的な苦痛など各部署からの依頼時には、病棟カンファレンスに参加して相談に対応した。また、がん疾患に限らず慢性期疾患患者の精神的苦痛対応や在宅支援に関する相談にも対応し、在宅療養に向けた支援につなげた。今後も患者や家族の QOL を改善するための緩和ケア相談を目指したい。



分野	小児救急看護：松尾 祐吾
実践	部署内の救急係と連携し、救急シナリオシミュレーションを継続して実施している。今後は、医師を含めてケース毎のチームダイナミクスを意識した対応に発展させる事を目指す。また、院内トリアージは2年目となり定期的なトリアージカンファレンス開催がトリアージナースのスキル向上につながり緊急度の高い患者への迅速な対応を可能にしている。より一層の質向上のために実践モデルとなり次のトリアージナース育成を図りたい。今後も子どもの権利を守るための家族への介入やホームケア指導の充実など、院内だけではなく地域のニーズに応えられるような小児看護を構築していきたい。
指導	院内ではチャレンジレベルⅠ・Ⅱを対象に「BLS」「急変時対応」「フィジカルアセスメント」研修、チャレンジレベルⅢ以上を対象に部署内の指導者を育成するための「フィジカルアセスメント」研修を実施した。院外では、子どもが家庭で病気や怪我をしたときに悪化しないための対処方法について「ホームケア」公開講座を実施し、市民の啓発活動に努めている。
相談	主に小児ユニット内での小児救急やトリアージ、急変時対応に関する相談事由に対応した。今後は、研修等を活用した広報活動を行い、他部門からの救急に関する相談などにも対応していきたい。

分野	母性看護専門看護師：阿部 祥子
実践	FAST チェックリストの外来使用を開始し病棟内での情報共有につなげることができた。それにより早期にハイリスクの患者を把握し対策を考える機会となった。
指導	病棟において産科をとりまく法律、国の流れ、千葉市における産後ケアについての勉強会を企画し実施した。今後も知識の啓蒙を行い質担保のための看護力向上を目指していく。
相談	病棟スタッフからの患者ケア（主に妊産婦・母乳・退院支援など）に対する相談に対応した。今後は他部署からの授乳や妊産婦に関する相談にも対応するための広報活動を行い母性看護の充実につなげた。

分野	乳がん看護：中村 志穂
実践	乳がん看護に関する最新の知識を習得しながら、患者の身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな状態を総合的に判断し個別にケアを計画、実践した。また、医師と連携を図りながら、看護外来で患者の意思決定に関する支援を実践した。
指導	市民に対して乳がん予防や早期発見の大切さを伝えるための啓発教育として公開講座を行った。また、日々の看護を行う中でスタッフが乳がん患者への心理面の支援について迷っている場面では、実践を通して役割モデルを示しながらスタッフに助言した。今後も伴に実践しながらサポートを継続していきたい。
相談	質の高い乳がん医療を推進するために、多職種と連携、協働し相談対応を行っている。また、ピアサポーターが主催している乳がん患者会に参加し、生活する上での様々な相談にも対応しサポートを行った。

分野	新生児集中ケア：伊東 真弓
実践	新生児看護の専門的知識を活用し個々の新生児とその家族に合わせた育児技術の獲得支援を行っている。また、部署のスタッフを対象に個別に合わせた育児支援看護を提供できるよう OJT を実践した。今後も育児技術獲得に関して集団指導から個別支援につながる OJT を実践していきたい。

指導	部署内の新生児フィジカルアセスメント力の向上を目指して勉強会を実施した。また、2017年度より新生児蘇生法講習会を、年間計画で開催する体制を構築した。これにより院内スタッフのスキルアップと共に院外から継続的に参加できる体制になった。今後は院内全体に広報して新生児蘇生法の普及を目指していく。
相談	入院中の新生児の症状に関する相談に対応した。今後は新生児蘇生法の普及を通して、新生児ケアに関する相談を他部署からも受けられるような広報活動をしていきたい。

分野	糖尿病看護：水谷 幸子
実践	<p>当院の糖尿病外来に通院中の患者や家族を対象に、糖尿病という病気を正しく理解し、食事療法や運動療法など、患者個々が自己管理できるようになる事を目的とした糖尿病教室の企画・運営を実践した。また、糖尿病は予防できる疾患でもあるため、健康な市民に対しても正しい知識と、理解を深めて貰うために市民を対象とした公開講座を開催した。</p> <p>今後は糖尿病合併症予防を目的としたフットケア外来の開設や糖尿病透析予防などにも着手していきたいと考えている。</p>
指導	自部署の看護スタッフを対象とした糖尿病の薬物療法についての勉強会を開催しました。また、新入職者を対象としたインスリン療法と血糖自己測定についての勉強会を開催した。定期的に勉強会を開催する事で糖尿病に対する知識を深めてもらい、患者に対し安全な看護が提供できて糖尿病看護の質の向上を目指していきたい。
相談	主に自部署の看護スタッフからの薬物療法、低血糖時の対応について相談対応を行った。糖尿病患者は院内どの部署にも存在するため、自己の存在を認知してもらえよう広報し、他部署からの相談件数を増やしていきたい。

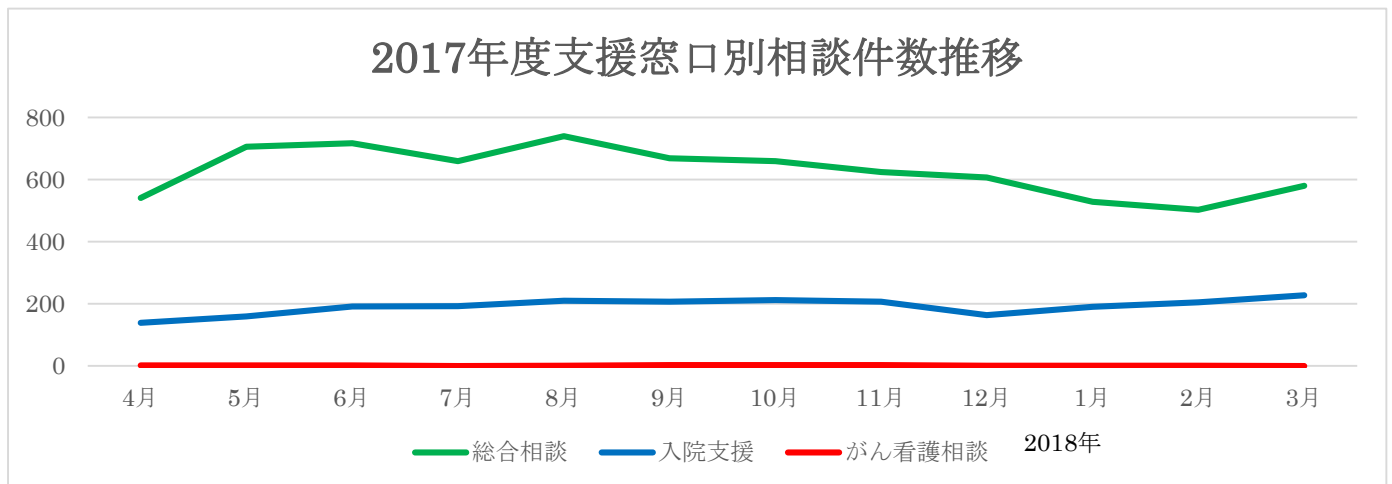
分野	感染管理：高本京子・大内咲絵・佐々木みゆき
実践	病院内で発生する感染症の監視と疫学的調査、多剤耐性菌の保菌状況を把握し管理を行った。2017年度より、手指衛生の質向上を目指すために手指消毒剤の使用量調査に加えて、手指消毒剤使用状況調査を追加した。その結果、手指衛生の実施の現状が明らかになったので各看護部署へ手指衛生が不足している場面についてフィードバックした。今後は、院内全体の手指衛生の実施状況調査を行い改善していくことを目指す。
指導	<p>2017年度は主に尿道留置カテーテル感染を低減させるため、尿道カテーテルの挿入理由を調査し、使用比の高い部署に対して挿入の適応を理解するための勉強会を行った。</p> <p>ICT（感染対策チーム）が実施している日々や毎週のラウンドで、標準予防策の遵守状況や環境整備（5S）状況を確認して、その都度改善への指導を実施した。</p> <p>院内では、委託職員を含む全職員への研修を複数回開催し全体の受講率は84%だった。また、院外研修で「高齢者施設での感染対策」についての講師依頼があり講義を実施した。</p>
相談	<p>認定看護師3名で看護部門の各部署を分担して担当している。相互に連携をとりながら電話やメールでの相談に応じた。主な相談は、医療機器の消毒・滅菌方法、患者・職員のインフルエンザ発症時の対応、廃棄物についての内容が多かった。</p> <p>2017年度 相談件数：29件</p>

## 看護研究会 2017年度 研究内容

研究題名	所属	研究者
「手術室の看護サービスに対する患者評価」	OPE 室	中村絵里 林千鶴 五十嵐輝美 伊藤由美
「終末期患者の退院支援における現状と課題」	5F	仙崎美奈 中村志穂
「小児科病棟における無投薬の要因～RCA を活用し再分析して～」	3F	寺田奈美 川島未来 坂本美紀 青山李 松尾祐吾
「乳がん術後の放射線治療を受ける患者へのパンフレットの有効性と今後の課題～看護記録情報の分析からわかったこと～」	外来	小林久美 渡邊和子 菅澤真純
「看護ケアの実態と認識～NICU/GCU に入院する新生児の痛みの軽減を目指したケア～」	NICU	三枝加奈 森裕子 松本直美

## 学会発表 一覧 (病院全体の実績一覧 参照)

### 相談支援センター 実績



地域における役割拡大のために、退院後訪問や同行訪問システムを構築し運用を開始しました。また、入院前から退院後まで切れ目のない支援が行えるように、入院支援における診療科をさらに拡大しました。総合相談窓口では年間相談件数が昨年に比べ倍増し、その中でも医療・受診相談が58.6%、地域からの電話相談は30%を占め相談内容も多岐にわたっています。また、がん相談窓口としてがん看護外来予約に19件結びつきました。

来年度は患者中心の継続看護質向上のため、入退院支援の強化(多職種連携による退院困難リスクへの対応と退院後同行訪問の実施)と多岐にわたる相談内容に対応できるスキルの向上が課題です。

## 看護部主催 教育講習会開催：【新生児蘇生法】講習会開催

	開催回数	参加者数	備考
新生児蘇生法専門 A コース	8/5・25, 2/17 計3回	17名	院内参加者
新生児蘇生法専門 B コース	4/11・18・19・20・21 7/25, 1/23, 2/21 計8回	30名	院内参加者
新生児蘇生法 スキルアップコース	5/22・23, 6/20 7/18, 8/21, 9/19・29 10/17・21, 11/21・25 12/19, 1/16, 2/20 3/20 計15回	77名	院内参加者 39名 院外参加者 38名（7施設）

今年度より地域の医療機関からの受講者募集・申し込み方法は地域連携室を介するシステムに変更した。また、指導できるインストラクターが昨年に増員となり開催回数を増やすことができた。

今後も新生児蘇生法（NCPR）の目的である「すべての分娩に新生児蘇生法を習得した医療スタッフが新生児の担当者として立ち会うことができる体制」を目指して活動していく。

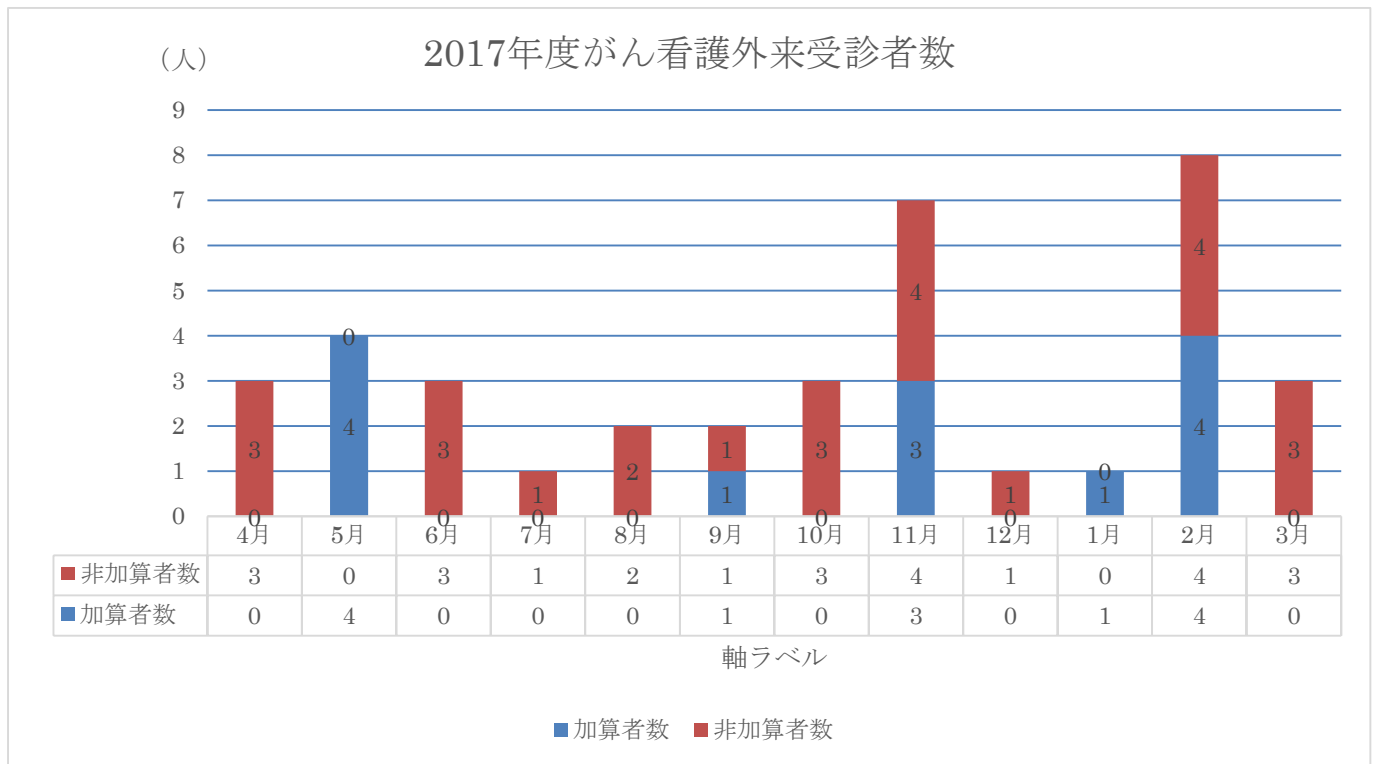
## 院外活動：地域活動・集患 【看護部主催 公開講座】

	開始日	講座名	講師名	場所	参加者数
1	2017年6月10日	生き生き元気に暮らそう 食生活編	原澤 環	高洲コミュニティーセンター	28
2	2017年9月9日	子供の急病・こんなとき どうすればいいの？	松尾 祐吾	高洲コミュニティーセンター	10
3	2017年12月10日	生き生き元気に暮らそう 糖尿病編	水谷 幸子	高洲コミュニティーセンター	25
4	2018年2月24日	生き生き元気に暮らそう 乳がん＆乳がん検診について	中村 志穂	高洲コミュニティーセンター	10

今年度より地域への情報公開・健康推進のため「生き生き元気に暮らそう」をテーマに公開講座を開催した。また、地域住民の利便性を考え開催場所は昨年同様、高洲コミュニティーセンターとした。講師は多職種協働として認定看護師だけでなく管理栄養士に依頼した。アンケート結果から「健康に関する話をさらに詳しく聞きたい。」「せっかくだから講座の時間はもう少し長くても良い」との要望があり、地域の健康推進・集患の一助になればと考え、今後も継続していく。

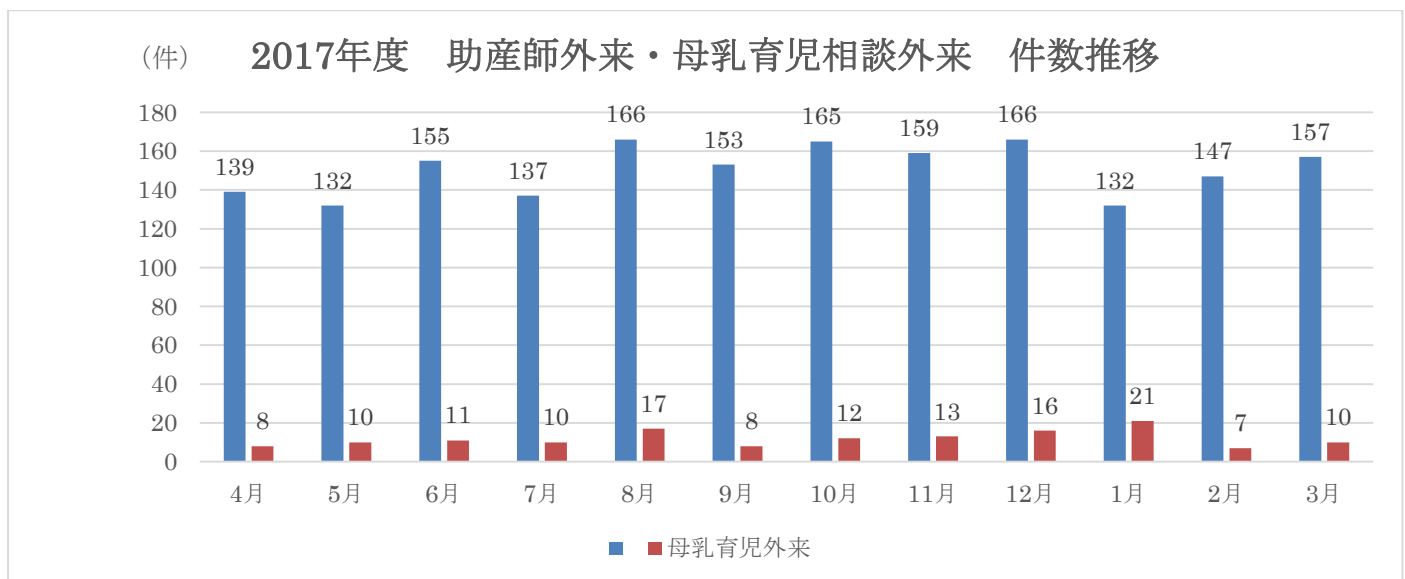
今後の課題：多職種と連携し地域住民のニーズに合わせたテーマに沿う内容の検討

看護外来：【がん看護外来】・【助産師外来・母乳育児外来】2017年度 実績



2017年度 がん看護外来受診者総数 38名（うち非加算 25名 ・ 加算 13名）

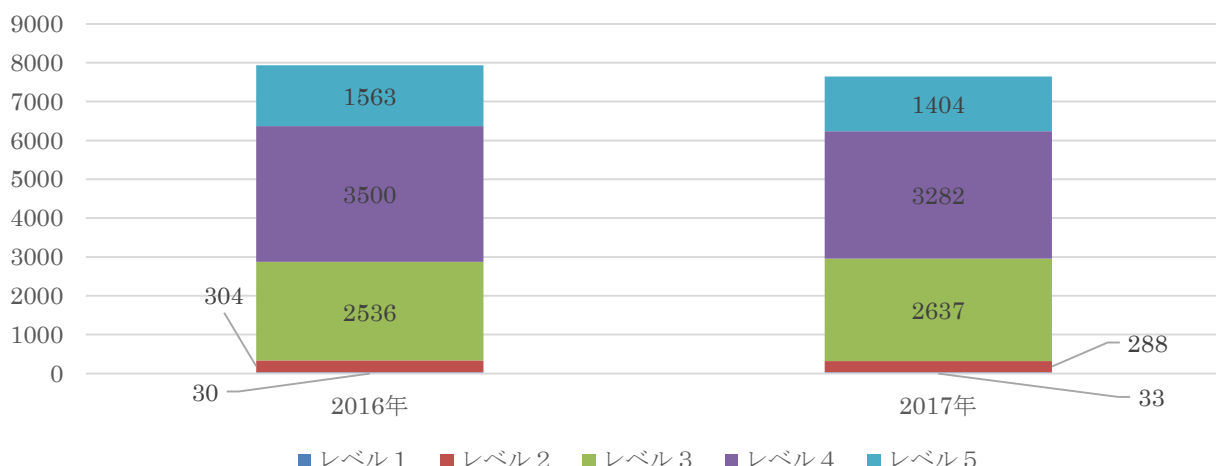
助産師外来



一昨年より母乳育児相談外来を開始し、2017年度は月に約3件増加した。助産師外来は前年と同様の件数であった。今後も対象者を拡大しながら母乳推進と助産師外来の充実が課題である。

## 小児救急対応の強化：【小児救急トリアージシステム：小児病棟】

### 小児トリアージ件数 年度別推移



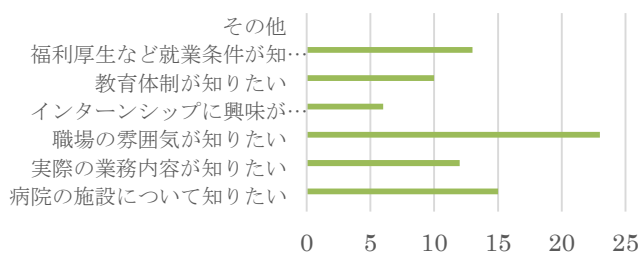
## 人材確保：【病院見学・インターシップ参加者】

2017年夏期インターシップ開催：8月 9・10日開催 合計：29名

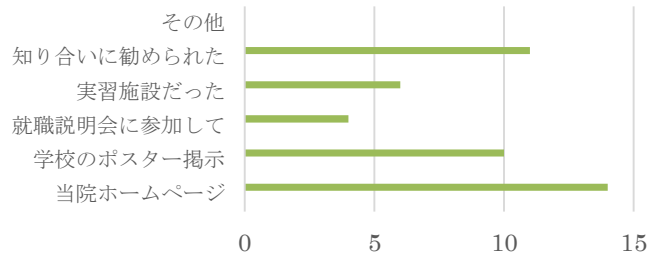
2018年春期インターシップ開催：3月 5・6日開催 合計：15名

### アンケート結果：

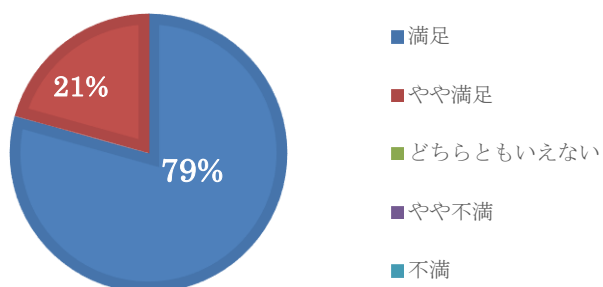
#### 当院への参加動機（複数回答）



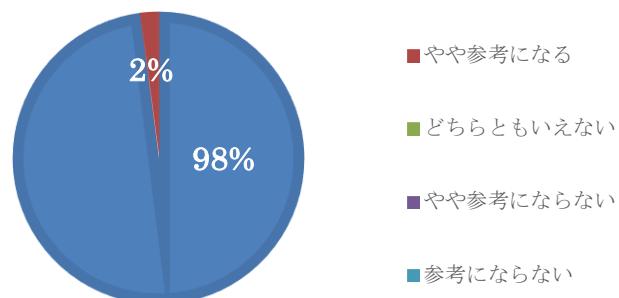
#### どこでインターンシップを知ったか



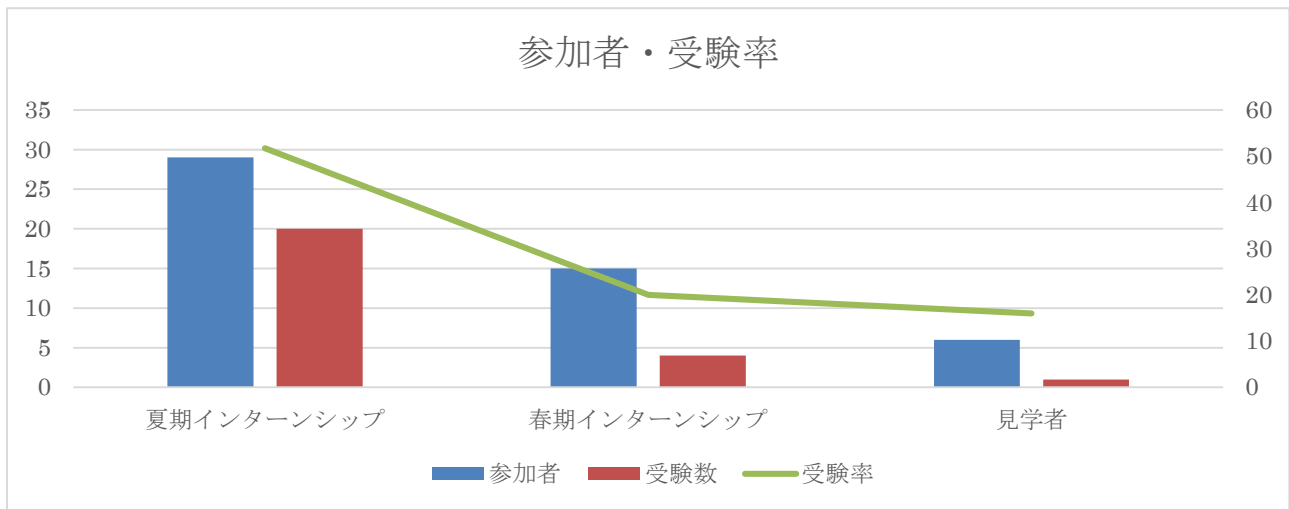
#### 総合的満足度



#### 就職活動の参考になるか

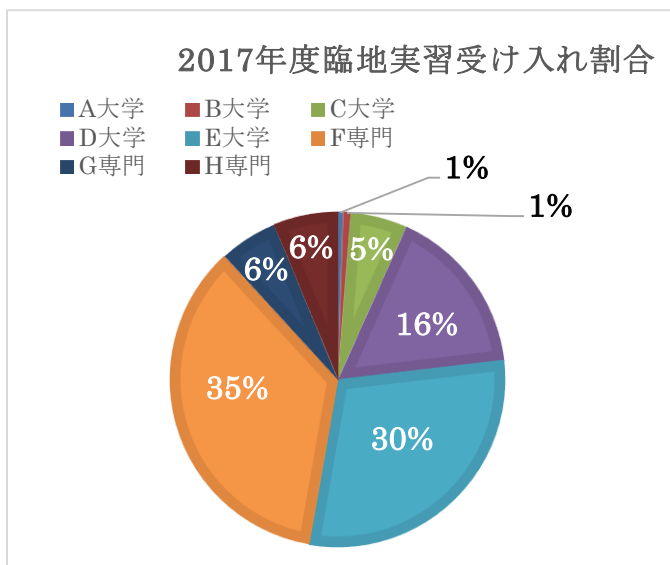






今後の課題：当院のインターンシップを選んだ理由から当院ホームページの充実が必要と考える。また、知り合いに勧められ当院のインターンシップに参加する人が半数近くいた。その知り合いは当院臨地実習経験者や教員であり、当院受験希望理由に多いことを踏まえると、よりよい学生指導・臨地実習場所になることが重要である。

## 臨地実習：【8施設の学生受け入れ 9専門学科】



今後の課題：2017年度は昨年より引き続きF専門学校の学生者数が減少したため、総受け入れ学生数が減少しているが、2018年度より80名と増員となる予定。さらに千葉市内に新設大学設立が増加、近隣に小児・母性の臨地実習場所となる施設が少なく、成人を含め実習希望数が増えている。受け入れる側としてはかなり厳しい状況ではあるが、各学校と協力調整しながら、学生に良質な臨地実習が提供出来るよう努力していきたい。